

## 予 算 決 算 委 員 会 会 議 録

- 1 日 時 令和6年6月27日(木曜日)  
午前9時30分～午前10時48分
- 2 場 所 委員会室
- 3 出席委員 戎屋昭彦 委員長 石井和幸 副委員長  
山中佳子 委員 三好睦子 委員  
岡山隆 委員 秋枝秀稔 委員  
杉山武志 委員 村田弘司 委員  
藤井敏通 委員 末永義美 委員  
山下安憲 委員 井上敬 委員  
竹下駿 委員 三善庸平 委員
- 4 欠席委員 竹岡昌治 委員
- 5 委員外出席議員  
荒山光広 議長
- 6 出席した事務局職員  
岡崎基代 議会事務局長 石田淳司 議会事務局議事調査班長  
阿武泰貴 議会事務局庶務班長
- 7 説明のため出席した者の職氏名  
篠田洋司 市長 志賀雅彦 副市長  
南順子 教育長 佐々木昭治 総務企画部長  
井上辰巳 市民福祉部長 市村祥二 建設農林部長  
河村充展 観光商工部長 中嶋一彦 会計管理者  
千々松雅幸 教育委員会事務局長 中野秀爾 消防長  
落合浩志 デジタル推進部次長 古屋敦子 総務企画部次長  
佐々木靖司 市民福祉部次長 中村壽志 建設農林部次長  
新家健司 行政経営課長
- 8 会議の次第は次のとおりである。

午前9時30分開会

○委員長（戒屋昭彦君） おはようございます。昨日に続き、予算決算委員会を開会します。

篠田市長が出席されてますので総括質疑を行います。その前に、執行部より申出がありましたので、それを許可します。中村建設農林部次長。

○建設農林部次長（中村壽志君） 昨日の秋枝委員の御質問に対しましてお答えできませんでした部分につきまして、回答させていただければと思います。

36ページ、概要書の36ページになります。

8款土木費、河川総務費の浚渫工事事業量についてであります。

現時点、浚渫を計画している8河川合計の事業量を申し上げますと、延長約8,400メートル、浚渫土量約3,000立米、河川内の流木伐採約1,000平米、工事用道路約3,700メートルであります。

以上でございます。

○委員長（戒屋昭彦君） それでは、議案第49号に対する質疑はありませんか。村田委員。

○委員（村田弘司君） それでは質問を、せっかく篠田市長が出席されておられるので、させていただきたいと思えます。

昨日、執行部のほうからる、今ありましたけども、概要書に従いまして説明を受けたところですが、市長がこの2月16日ですかね、本会議初日ですね、所信表明演説をされました。2期目の市長として、いろんな思いを述べられたわけですが、基本的には、今ここ私持ってますけれども、第二次美祢市総合計画、これにのっかって、2期目の市政運営をされるということをおっしゃいました。

また、令和2年度から令和11年度のこれ計画書なんですけれども、令和7年度から後期計画が始まるということで、令和6年度がそれを策定していくといたしますか、積み上げて、精査をして積み上げる仕事の大変な年度であるということもおっしゃいました。それに基づいて、4つの約束ということをおっしゃいましたね。

1つには安心・安全、2つ目が元気づくり、3つ目が次世代支援、4つ目がひとつになれる市政ということをおっしゃいました。

それで、冒頭申し上げたように、昨日の執行部からの説明いろいろ聞かさせていただきました。確かに、今申し上げた4つの取組の中の3つ目の次世代支援、

mineto公設塾なんですけれども、これをさらに充実させていって、次世代を担う子どもたちを育てていこうという熱意を感じました。

しかしながら、その他のいろんなものをいろいろお伺いしたんですけれども、特に、4つの取組の中の2番目にあります元気づくりという点なんですけど、なかなか昨日の補正予算の中身を聞いておって、これだというのを感じなかった。っていうのが、裏を返せば、ちょっと熱を感じなかったというのがありまして、私の感じなかった感性が鈍いのか、それとも篠田市長がこの補正予算書の中の裏に秘められたいろんな思いがあって、それが私は受け取れなかったかよく分からないんですが、その辺をちょっと、市長にどういうことかということで質問させていただきたい。

どういうことかというのが、今の4つの取組がありますよね、それを踏まえて、この補正予算をつくられた思いなり、こういうことをもって、美祢市の元気をつくっていくということがあろうかと思えます。それをここで聞かせていただけたらというふうに思います。

○委員長（戎屋昭彦君） 篠田市長。

○市長（篠田洋司君） 村田委員の御質問にお答えいたします。

まず、安全・安心のまちづくりでございますが、これ可及的に、また加速的に、また計画的に、安全な地域づくりを進めていかなければなりません。

特に、昨年大規模な災害を受けました本市にとっては、これは、急務な課題だというふうに思っておりますので、過去、河川浚渫については、過去最大規模の予算措置だというふうに思っております。これをすることによって、いかに地域の方に、安心を与えるかということは非常に大事だと思っております。

次に、元気づくりの点でございます。

これについては、予算規模的には、事細やかな予算措置をしているわけでございます、農林業とかはですね。ただ、核となるのは、何かっていうのは見えにくいというのを十分承知しております。

1つは、やはり秋吉台地域を中心とした観光の地域づくりであろうと思えます。DMOを核とした観光地域づくりをいかに進めていくかということが非常に大事だというふうに思っております。したがって、このたび瀬戸内DMOの知見を借りて、秋吉台地域、また地域の合意形成を図りながら、これらの再生に向けて進むこととしております。

今後、今フェーズⅠからフェーズⅡというふうに、段階を追って進めているわけ  
でございます。今どうしても、秋吉台上の廃墟となったホテルについては、やはり  
破産管財人さんもらっしゃるわけでございますので、弁護士との調整等も必要な  
わけでございます。したがいまして、このたびの予算はフェーズⅡということで、  
地域の合意形成と次にどうやって進めていくかということとなります。

今後、これについては、大きな予算を伴うものだというふうに思っております。  
何よりも、観光を中心とした本当に元気創造というのは必要不可欠だというふうに  
思っております。

そして、まだまだ元気創造のためには、どうしても地域の皆さんのお力を借りて、  
お借りしなければなりません。そして、地域の方と合意形成を得ながら、元気づく  
りに向けて進めてまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○委員長（戒屋昭彦君） 村田委員。

○委員（村田弘司君） 篠田市長、いいじゃないですか。今のような形でね、市民に  
向けて、どんどん発信をしてもらいたいんです。

市民が今、市長が一番よく認識しておられると思うけども、人口が減って行って、  
今美祢線も休線状態ですよ。いろんな意味で、未来に対する不安を感じておられ  
る方が多いです。

その中で、市のトップたる市長がいかに前向いての発信をするかということが市  
民の元気につながりますんでね、今のような言葉を市民の方々聞きたいというふう  
に願っておりますので、どうかこれからもあらゆる面で発信をよろしく願いたい  
と思います。

以上です。

○委員長（戒屋昭彦君） そのほか質疑ございませんか。山中委員。

○委員（山中佳子君） それでは、ちょっと公設塾minetoについてお尋ねします。

6月18日の本会議において、公設塾minetoの年度ごとの費用、参加人数について  
資料請求しましたが、納得のいく数字が出ておりません。

それで、令和5年度と令和6年度の予算書から拾った数字によりますと、令和5  
年度が3,967万4,000円、令和6年度は6,451万6,000円と、令和5年から令和6年度  
にかけて、2,500万円増となっています。

増額の理由は、今年度は公設塾運営スタッフ4名、コーディネーター1名、地域プロジェクトマネジャー1名、さらに美祢魅力発掘隊員2名を加え、高校生版公設塾まで設置されようとしていることにあると思われま

す。市長は、令和2年6月16日の本会議において、公設塾の目的ビジョンについて質問した議員に対して、目的は本市小学生、中学生の学力向上でございます。それは、どうしても学校の先生では限界がある。そこに誰でもいいわけではなくて、しっかりした方が教育、そのカリキュラムを学ぶように、学べるように公設塾を開設するわけでございます。

この究極の目的は、やはり家庭的な事情で塾に行けない方もいらっしゃいます。それも併せて、特に複式学級、小規模校においては、そういう御不安な点がありますから、多様な人材を、きちんと教えられる人材を確保し、そこで学校の先生以外のきちんと教えられる方が教えるというイメージでございますと答えられています。

そこで、3点お尋ねします。

まず、市長の当初の公設塾設置の目的は学力向上であったはずですが、どこで方向転換されたのでしょうか。

2番目に、公設塾開設に伴い多様な人材、きちんと教えられる人材を確保するために、今の運営スタッフをどのような方法で選定されたのか。

3番目に、塾生は今年度40名となっていますが、美祢市内の全中学生を対象とした場合の公平性は保たれているのか。

以上、3点お尋ねします。

○委員長（戒屋昭彦君） 篠田市長。

○市長（篠田洋司君） 山中委員の御質問にお答えします。

当初の制度設計、私の最初の市長就任前の公約として、公設塾設置を掲げさせていただきました。そのときの私の制度設計的には、7人に1人は、やはり経済的に、塾に行きたくても行けない子がいるということと、小規模校をいかに守るかという観点もございました。これ、以前から交流のありました藤山浩先生、また、島根県等を参考にさせていただいた制度設計でございます。

そこで、やはり難しかったのが既存の塾とのすみ分けをどうするかということで、当時、教育委員会、中本教育長とそして八木下文科省から職員がいたと思いますけど、どうやって制度設計するかということで、1年目は調査をしたと思います、ど

ういった形がいいのかということ。そうすると小学校から中学校になると、どうしてもぼけるといふことと、それと、やはり中学校の地元への愛着度が物すごく低下している。そして、自己肯定感が低下してる。まずは、ここを元気にしていこうということでの制度設計でございます。

可能な限り、国の制度、また補助金等を活用しながら、安定的に運営していくかということも必要でございますので、制度設計については、いかに中学生を元気にしていくか、また地元の愛着を増していくか、そして、いかに好奇心を育ていくか、そして、自己肯定感を高めていくかという観点からこの公設塾、今の運営方法に至ったわけでございます。

2点目、いかに人材を確保するかという点でございます。

これは地域魅力——地域おこし協力隊の制度、いろんな制度があるわけでございます。これを可能な限り活用して、そして、これ採用に当たっては、教育委員会を中心とした選定委員が選定するわけでございますので、人材確保については、十分公平性、また、公正性が担保されているというふうに思っております。

3点目、どうしても偏りがあるから40人という塾生で、公平性が担保されているかという御質問でございます。

これについては、幅広く公募っていうか、募集をかけているわけでございますので、第一義的には、公平性は担保できてるというふうに思っております。

しかしながら、地域的な課題が残っているわけでございます。どうしても美東地域・秋芳地域、公設塾から遠い生徒への配慮をどうするかっていうのは今後の課題でありますし、いかにこの美東地域・秋芳地域からの生徒にいかに配慮するかというのは、今後も引き続き、配慮しながら実施してまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○委員長（戎屋昭彦君） 山中委員。

○委員（山中佳子君） 今現在、公設塾のスタッフですけれども、昨日の説明では、今度、美祢魅力発掘隊2名っていうのも今、公設塾に常駐されている方々のグループから選ばれる可能性もあるというお話でしたけれども、このスタッフっていうのは、一番初めはどのようにして選定されたんでしょうか。公募されたんですか、全国的に。

○委員長（戎屋昭彦君） 篠田市長。

○市長（篠田洋司君） 山中委員の御質問にお答えいたします。

この制度設計、人材の確保については、最初から変わっておりません。したがって、最初のスタッフから公募という形をとらせていただいております。地域おこし協力隊の制度を活用した人材を登用しております。

以上でございます。

○委員長（戎屋昭彦君） 山中委員。

○委員（山中佳子君） 今年度は、4中学校から40名に当たる生徒が通塾しているということですが、これは全中学生の約1割に当たると思います。

財源は交付金や特別交付税措置もされているようですが、一般財源からもかなりの金額が投入されています。希望すれば、誰でも入れる塾ではありますが、家庭の事情、交通事情、子どもの性格上の向き不向きもあり、入塾していない子どもは9割います。1割の中学生にこれだけの血税を投じられることに対して、税の公平性から適切であると思われていますでしょうか。

○委員長（戎屋昭彦君） 篠田市長。

○市長（篠田洋司君） 山中委員の御質問にお答えいたします。

mineto教育改革プロジェクトの中に、公設塾という部門があるわけでございます。

これについては、ほとんど交付金、デジタル田園都市交付金、また交付税、または特別交付税等を充てているわけでございます。したがって、これについては、一般財源の持ち出しというのは少ないわけでございます。

これが税の公平性上担保されてる、公平性が担保されているかという御質問でございます。

広く公募して、やはりいかに地域に興味を持ってもらうか、そして、好奇心をいかに育むか、そして、挑戦する心をいかに育てていくかということは非常に大事だろうと思っております。その分、その点においては、確かに、確かに言われるように、塾生が40人と1割程度かもしれません。でも、その彼ら彼女らの能力を引き上げることも非常に大事だろうというふうに思っております。

これ、広く可能な限り、通塾しやすい環境整備を整えながら、いかに中学生を元気にしていくかということは非常に大事だと思いますので、今後とも引き続き、こ

れについては、いかに公平性という視点も持ちながら、事業を実施してまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○委員長（戒屋昭彦君） その他質疑ございませんか。杉山委員。

○委員（杉山武志君） 私からは、3点お尋ねしたいと思います。

今、minetoの話が出ましたので、まず39ページのminetoの関係からお伺いいたします。

先ほど来、公募になるということでお話を伺っておりますが、市長のお考えとして、1社にお任せして、一貫性を持たせたいと思っておられるのか。それとも公募することにより、他の人間を巻き込んで、相乗効果を図ろうと思ってるのか、その考え方の差をちょっと伺いたいと。

でないと、今の計6,451万6,000円、これは丸々1社に流れるような形になって、それがいいのか悪いのかと、そういうところにも関わってきますので、お考えをお示しいただきたいと。

子どもの数が中学校、高校合わせて900人ぐらいで、そのうちminetoに行ってる子が40人、今度新たに高校生が30人ということで、900分の70、今税の公平性というお話もありましたけど、方向性がきちんとしていっているのかどうかというところを確認したいと思います。

それから、今このminetoの話の最中に、名前が出ました藤山浩さんというお名前、どうしたらいいか、藤山浩さんとSFCとかにお尋ねしたっていう、名前が出たのでちょっと驚いたんですけど、2番目が25ページの地域活性化推進事業、この藤山浩さんというお名前が説明のときに出ております。この方とどういうお付き合いがあるのか分かりませんが、こちらのほうでも、お仕事をお願いするようになってると。で、人口減少対策の調査を行うと、人口減少、人口減少とって、随分たとうと思わんですけど、今さら調査かという思いがしております。で、なおかつですね、同じ方の名前が出たと、ちょっと不思議に思っております。

これで、いつ頃までにどういう調査をされて、次のステップをいつ頃に考えておられるのか、それが2点目のお尋ねです。

そして、3点目が26ページ、こども医療助成事業、ここに高校生の医療費を制限なく負担してあげるっていういい制度なんですけど、もう実は、私市内の保護者の



方から近隣他市では、高校生も無料なのに、美祢市はどうしてしないのかというのを相談を受けておりました。

で、昨日ですか、ちょっと伺いましたら、近隣他市で、二、三年前からこういうことやってるものか確認しておられたということで、市長がこれを取組が遅れた、もしくは遅らせた理由があれば、あまりにもちょっと2年、3年後に人口を増やそうとか、定住者を増やそうとか思っておられる方がこういう取組が遅れるっていうのはどうなのかなという思いがしますので、遅れた、遅らせた理由があれば、お話しいただければと思います。

以上です。

○委員長（戎屋昭彦君） 篠田市長。

○市長（篠田洋司君） 杉山委員の御質問にお答えいたします。

3点御質問いただきました。

まず、公設塾の人材の登用でございます。

これは、委託業者に頼むのかどうかということでございますが、これは広く公募することとしております。

○委員（杉山武志君） 一貫性を持った、一貫性を持たせるつもりなのか、相乗効果も多少……

○市長（篠田洋司君） そういった意味では、公募いたしますので、相乗効果という点が強いのではなかろうかと思えます。

当然、塾としての方向性というのは一貫性がないといけませんので、それについては十分、確認の上採用するようになろうかと思えます。

2点目の御質問でございます。

藤山浩さんという名前を出させていただきました。これについては、昨日、佃創生監のほうからこの個人名が出ましたので、あえて申し上げたところでございます。

この方は、もともと島根県県庁で、中山間、島根県が設置した中山間地域研究センターというようなところに御勤務で、特に中山間地域の活性化については、もう日本でも第一人者でございます。その後、県庁を退職されて、全国各地で人口分析等をされているわけでございます。

この人口分析っていうのは、今広く、美祢市だけを切り取った場合、なかなかぼけてしまう。で、イメージ的には、公民館単位で人口分析していこうということで

す。人口分析して、何人取り戻せば、人口が安定するかという安定化シナリオまで含んだ業務と一緒に、職員と一緒にやっという取組でございます。

これについては、本当に、特に職員というのは、20年後もまだ職員でいるわけでございますので、若い職員がですね、ですから、まずは本当に、職員が自分事として捉えて、この地域を自分事として捉えてやっということも非常に大事だというふうに思っておりますので、これは職員、また住民も巻き込みながら人口分析、そして、安定化シナリオまで進めていくこととしております。

3点目の高校生の医療費の件でございます。

これは多分、大部分が今年度から高校生の、高校生までの医療費の無償化に今山口県内は取り組んだところで、妥当だろうと思います。

確かに、近隣、例えば阿武町であるとか、そういうところは先んじて、高校生までの医療費の無償化に取り組まれているところでございますが、これは決して遅れた、遅らせたというわけではございません。少子化対策プロジェクトチーム、庁内にあつて、段階的にいろんな子育て支援策を講じたわけでございます。第一子の保育料についても、県内では先駆けて無償化に取り組んだわけでございます。

これについてもきちんと根拠がありまして、やはり第一子は無償、半額にするということは非常に大事だというふうに、データ上思ったわけでございます。

これについては、ちょっと、ちょっと御質問からずれますけど、やはり美祢市は、3歳未満の子どもさんを持ってらっしゃる家庭の共働き率が、現在の平均は60%でございます。でも、美祢市の平均は70%ということで、やっぱり10ポイント高い、しかも2万4,600円、月額保育料が2万4,600円以上という方が約7割、そして、4万7,600円という方が2割、やはりここを減額、また安くするっていうか、減額することによって、第2子、第3子につなげていこうという取組を先にさせていただいたわけでございます。

これは、決して、高校生までの医療費の無償化を遅らせたわけではなくて、どれから優先的にやっという結果でございます。

以上でございます。

○委員長（戒屋昭彦君） 杉山委員。

○委員（杉山武志君） ありがとうございます。

先ほどの藤山浩さんですね、経歴をお伺いしたところ、五、六年前に、赤郷の公

民館で、調査とかされた方じゃないかなと思うんですが、今さら、また同じ方に調査を依頼する。

○委員長（戒屋昭彦君） 篠田市長。

○市長（篠田洋司君） ある程度の調査を持ってらっしゃいますので、分析とか調査は。ですから、データを持ってらっしゃるから多分、非常に安価でございます。だから調査・分析、安定化シナリオまで含めて、これ、いかに何人を取り戻したら人口が安定化するかということは、島根県では全域で取り組まれ、ほとんどの地域で取り組まれているところでございます。

今後、やっぱり自ら、また我々、職員も、また地域の方も地域に入り込んだ取組が必要だろうと思っております。当然、赤郷での中に入り込んでいただいて、赤郷地域の活性化にも御尽力いただいた方でございます。

以上です。

○委員長（戒屋昭彦君） 杉山委員。

○委員（杉山武志君） 掘り下げて申し訳ないんですけど、赤郷地区で五、六年前に、公民館でいろいろと調査ですとか、お話をされたのを私伺っております。その成果といえますか、実績的なものは出ましたのでしょうか。

もし、実績が出ておれば、市内全域をお願いするという話にも流れようと思うんですが、その辺はどうお考えでしょうか。

○委員長（戒屋昭彦君） 篠田市長。

○市長（篠田洋司君） 杉山委員の御質問にお答えいたします。

これは、県の中山間地域支援室か何かのアドバイザーでもあります藤山浩先生でございます。赤郷地域をお願いしたというのは、我々というより、県のほうからお願いされたわけでございます。実績としては、十分できてるというふうに思っております。

その結果で、一般社団法人であります、きちんとした赤郷地域に組織づくりができたわけでございますし、それを核としたバスの運行であるとか、そして、ええとこ市の開催であるとか、そういった地域活性化に、十分御貢献いただいたというふうに思っております。

以上です。

○委員長（戒屋昭彦君） よろしいですか。その他質疑ございますか。秋枝委員。

○委員（秋枝秀稔君） 今の議論を聞いておまして、人口減少というのはもう分かっているんですよ。経済が成り立たんにゃあ、人口が減るんです。これが現実なんですよね。地域振興はいくらやっても、経済が成り立たんにゃあ、人口増えんです。ここですよ。ここを、私はその経済成り立つためには、企業誘致、企業育成ともう1つは農業です。この2つです、基本は。私はそう思っております。

それで、私このたび一般質問を出したんですけど、この前、先日所信表明で、農林業の再興ということを言われました。で、同じく農林業は、基幹産業と全く私も同感です。

で、じゃあどうするか、予算にどういうふうに、いろいろしてくるかということを見ましても、見えんです。その辺、市長はどういうふうに考えておられますでしょうか。

○委員長（戎屋昭彦君） 篠田市長。

○市長（篠田洋司君） 秋枝委員の御質問にお答えいたします。

いろいろ言われましたが、農林業の振興でございます。

まず、人口のことを言われました。人口増加ではなくて、いかにこの地域の人口を安定させるかということが必要だろうと思います。で、その取組の1つでございます。

ですから、各地域で人口の安定化シナリオをつけることによって、安定化シナリオをつくることによって、また、それは地域の方にも御協力いただいて、人口を安定化させるっていうことが非常に必要だろうと思います。出生数を下げ止まりをなくすということでございます。出生数とか若者人口を取り戻して、ある程度の人口を取戻しながら人口増加になって、安定化させるという取組は非常に大事だろうというふうに思っております。

その1つは、秋枝委員言われましたように、農林業の振興も非常に大事だろうと思います。やはり農業、林業で、農業で特に食べていければ、若い方が戻ってくるということもあるわけでございます。

これにつきましては、農業の基本法、食料・農業・農村基本法の改正も抜本的に行われたわけでございます。なかなか国としても、有効な手だてが打ててないというふうに思っておりますし、今後、計画にどう国のほうで、また県のほうで、どう落とし込むかということが非常に大事だろうと思います。

で、市町村はどうしてやっていくのかっていうのは、やはり新規就農の確保であるとか、事細かな、事細かな政策を今後も継続的に、継続的にやっていくしかないというふうに思っております。

これ、なかなか農業の場合は、いまだ示されてますけど、生産費を価格に転嫁するということが非常に厳しい作業でございます。やはりいかに価格を、価格に転嫁するか、農業所得の向上を図りながら、そして農業を図れば、図れば、農業が持続可能な産業として、業として成り立っていくのではなかろうかと思いますが、どうしても、市単独だけではなかなか難しい部分もございます。それは財政的な部分、そしていろんな部分で、ここに巨額の市の予算を投じるのも限界があるわけでございますので、やはり今、農業については、本当に農業者に寄り添った形で、きめ細やかな支援策を講じていくしかないというふうに思っておりますし、今後もその予定でございます。

以上です。

○委員長（戎屋昭彦君） 秋枝委員。

○委員（秋枝秀稔君） いろいろ苦心されてるというのは分かります。分かりますが、ここで、やはり今、本当農業の曲がり角っていうか、沈没寸前なんですよね。もうちまちました小さい予算をつけてやるより、ぱっともっと驚くような予算を出してほしいというふうに思っております。

先ほどから人口減もありましたけど、国立の人口問題研究所によりますと、もう11年後には、美祢市は1万6,000人になるというふうに推計出しております、1万6,000人で大丈夫だろうか。1万6,000人、本当に1万6,000人維持できるだろうかというふうに思っております。

やはり、ここは経済です。経済が成り立つように、企業誘致、市内企業の育成、それから農林業をきちんと確立できるような施策を打ち出していくと、こういうことだろうというふうに思っております、予算に反映されるように、考えていただきたいというふうに思っております。

で、先ほどからジオパーク、minetoが出ましたけど、これ予算結構でかいんですよ。両方合わせて1億5,000万円ぐらいあってまして、計算すると、一般財源に1億1,000万円ぐらいいっとるんですよ。使い過ぎじゃないですか。もうちょっと、この金を農林業に回してください。ということで、答弁があればお聞きいたし

ます。

○委員長（戒屋昭彦君） 篠田市長。

○市長（篠田洋司君） 秋枝委員の御質問、御要望にお答えいたします。

まず、企業誘致については、本当に実施していかなければなりません、なかなかマッチングしないというのも御理解いただきたいと思います。

せっかく誘致した企業は、なかなか人材がいない、募集しても人が来ないという問題も抱えているわけでございます。せっかく美祢には、いい企業がたくさん来てるのに、何かという話もいただいております。これは全国、東京でも大阪でも、そして中京圏でも、担当者の方が言われたわけでございます。

今、実際には、企業団地がないわけでございますけど、特に、この企業誘致は引き続き、力を尽くしてまいりたいというふうに思っております。

それと公設塾については、公設塾の経費については、可能な限り、県、国の交付金、また交付税、または特別交付税を充てて、一般財源が可能な限り少ない、持ち出しが少ない状態で運営しているというふうに思っております。

ジオパークにつきましては、年間大体、人件費も含めて、大体取組当初から6,000万円前後、また――で推移しているかというふうに思っております。一部看板とかの設置で、凸凹はあるわけでございますけど、約人件費も含めて、トータルで、6,000万円程度投じているわけでございます。

これについては、非常にジオパーク活動というのは、非常に、私的には、防災上も非常に有効だということと、何よりもふるさと教育に、非常に有効だというふうに思っております。

現在、日本では、日本ジオパークっていうのは大体46地域あるわけでございます。で、ここのすばらしい、この地域のすばらしいところは、やはりほかと違うというのが主テーマを、主テーマがほとんどほかの地域、46の地域っていうのは、火山とか地震活動でありますけど、ここのMine秋吉台ジオパークの主テーマは、一部カルデラもありますけど、主テーマがそういった地震活動、火山活動ではないということでございます。

御案内のとおり、世界中の震度6以上の地震の5回に1回は、日本列島で起きてるわけでございますし、日本には123の活火山もあるわけでございます。地震活動、また火山活動が非常に少ない地域でございますので、これは、中京圏の企業誘致、

こちらに誘致として入られた企業の方もよく知ってらっしゃったわけでございます。そういった部分を世界にアピールする、本当に、また美祢市をアピールする、本当有用な活動だろうというふうに思っております。

特に、ジオガイドの育成については、78人というふうにどんどんどんどん、ジオガイドさんも育成できたわけでございますし、これについては、最初からやり続けて、途中でやめるのはもったいないというふうに思っております。もっともっとジオパーク活動すれば、これが防災活動につながる。また、ふるさと学習にもつながるというふうに思っております。

現在、石川県は、逆に、今ジオパーク活動をやっているところが増えて、石川県もそうでございます。これは、防災活動に非常に有用だということでございますので、このジオパーク活動というのは、日本では、もっともっと活発化するのではなかろうかというふうに思っております。

以上です。

○委員長（戒屋昭彦君） 秋枝委員。

○委員（秋枝秀稔君） いろいろ考えておられる、地域のことをですね、そういう視点を私初めて聞きました。

それはそれとして、一般市民税は、個人住民税が35億ぐらい私の記憶ではあると思うんですけど、そのうちの5%も、minetoとジオパークで使っちゃいけないというんじゃないんですよ。5%つぎ込むんなら、一般財源ですよ、一般財源をつぎ込むのがいいか悪いか、この判断は、ちょっと検討はするべきだというふうに思っております。

以上です。

○委員長（戒屋昭彦君） それは質問ですか。お願い。その他質疑ございませんか。三好委員。

○委員（三好睦子君） お尋ねいたします。

3点あるんですけど、まず1点目なんですけど、先ほど質問の答弁の中にもありましたけれど、農業です。農業は、美祢市の基幹産業ですし、農業は人の命をつなぐ重要な産業です。農家の方、今、私も僅か3反ですけど、一応農家なんですけど、今本当、生産資材の高騰で営農が厳しい状況です。

今回の予算の中に、保険料等の助成事業がありますが、営農をしていくには、あ

まりにも厳しい状況です。美祢市独自の、昨年では、物価高騰、生産資材の肥料、農薬とかの高騰の支援がありました、ありました、なかなか農家の方、3,000円ではなかなか、何にも足しにはならないという声を聞いております。まあないよりはましかっていう声も聞きましたけれど、これを美祢市独自で農業者、戸別所得補償制度はできませんでしょうか。

せめて一反に、5,000円以上、たくさんあればいいんですが、全て5,000円以上、段階的にでもいいんですけれど、創設していただけないでしょうか。

まず1点目です。お考えをお尋ねします。

○委員長（戎屋昭彦君） 篠田市長。

○市長（篠田洋司君） 三好委員の御質問にお答えいたします。

まず、資材高騰に対する支援でございます。

これにつきましては、当初、農業経営継続支援ということで、昨年度も予算計上させていただきましたけど、これは当初はやる予定でございましたが、県のほうがこのたび実施されるということでございますので、我々は、共済費の所得補償分の支援というふうに——ほうを優先させていただきました。

今後、資材高騰もさらに予想されますので、今後については検討してまいりたいというふうに思っておりますし、あと、やはり資財高騰、燃料高騰、燃料費高騰、そして、餌代高騰等で、本当に畜産農家が困っていらっしゃいますので、これにつきましては、畜産部会と協議しながら予算を、予算編成を行ったところでございます。どういった支援が必要なのかということをお聞きしながら、予算編成を行ったところでございます。

御質問の反5,000円の所得補償を市でできないかという御質問でございます。

これについては、かなりの予算額が必要となります。これについては、どちらかという、国などに働きかけたほうが、農家の所得補償という部分では、やはり国が抜本的にどうするのかということと国の支援のレベルだろうというふうに思っております。

特に、中山間地域限定、中山間地域が特に、生産費が高いわけでございます。これにつきましては、引き続き今も中山間直市については、県市長会、また全国市長会を通じて、単価の上昇、また、きちんとした予算の確保については、要望をしているところでございますので、そういった形で、中山間地域の農業支援については、



国のほうに要望し続けたいというふうに思っております。

以上でございます。

○委員長（戒屋昭彦君） 三好委員。

○委員（三好睦子君） 今、県にも予算が、事業があると言われましたが、それにプラスしていただきたいと思います。国の予算、農業政策は、主に国政なんですけれど、それプラス中山間で、本当に農業を守っていく。このことが、美祢市の市の事業でも力を入れていくべきだと思います。本当に、活力あるまちになるかならないかということは農業、農業だと思うんですけれど、農業が元気になることこそ、この美祢市も元気になると考えます。よろしくお願いします。

2番目にいきます。

市長の公約の中にあるんですけれど、この中に、市民モニター制度、市民モニター制度の創設ってありますが、どのような、具体的にはどのようなことなんでしょうか。

○委員長（戒屋昭彦君） 今補正予算、昨日の予算に対して、市長の一括というか、質疑なので、そういったことについては、また一般質問なりのほうで、個人的に。大丈夫ですか。三好委員。

○委員（三好睦子君） 何か、次が尋ねたく、聞きづらくなったんですけれど、経済活性化、経済活性化の中で——25ページです。すみません、地域活性化、これに関連してくるんですけれど、地域が活性化していく、それには、先ほどから出ました藤山先生のこともありました。それから赤郷のことでも出ましたけれど、活性化するためには、市民の移動なんですけれど、市民の移動の中で、私はいつも思ってるんですけれど、スクールバスのドライバーの方、それについて……

○委員長（戒屋昭彦君） 昨日質問された件ですか。

○委員（三好睦子君） でも、これはですね……

○委員長（戒屋昭彦君） 三好委員、私、昨日の予算決算のことについて総括質疑でございますから、ドライバー、昨日の三好さんの発言もありましたし、私、答弁させていただきましたけど、それについては、今日、この場ではやめていただきたいと思います。三好委員。

○委員（三好睦子君） ドライバーの件については関連するんですけど、市の会計年度任用職員の処遇改善、美祢市で働く方たちの収入が増えることが、所得を増やす

ことが経済の好循環になると思います。

それで、市の会計年度任用職員の……

○委員長（戎屋昭彦君） 三好委員、すみません、地域活性化、確かにドライバーの所得が増えるということで——今、昨日の補正予算についての一括質疑でございますから、それに対しての質疑を、市長に対する一括ですから、そちらのほうで。総括ですから。三好委員。

○委員（三好睦子君） 市が元気になることを聞いているんですけど、駄目なんですか。

○委員長（戎屋昭彦君） 調査費用の承認だから。今、先ほど言いましたように、昨日、一般予算の補正が説明がありましたので、それに対して、今日市長に出席ただいて、総括質疑でございますから、そちらのほうは、先ほど私が発言させていただきましたように、説明で、地域の活性化なりで、ドライバー等の質疑をしていただけたらと思います。よろしいですか。

○委員（三好睦子君） 分かりました。次回、一般質問で。

○委員長（戎屋昭彦君） その他質疑ございますか。石井副委員長。

○副委員長（石井和幸君） 41ページの図書館複合化施設整備事業についてお伺いいたします。

昨日お話もありましたけど、この施設は、中心市街地のまちづくりの拠点の1つになると思います。まちづくりも一緒に進めていく、いかなければならないと思いますけど、今後の方向性についてお伺いいたします。

○委員長（戎屋昭彦君） 篠田市長。

○市長（篠田洋司君） 石井副委員長の御質問にお答えいたします。

これ説明、以前、立地適正化計画を策定していくというということで、この中心地をどう活性化するか、どう拠点として、魅力ある拠点にしていくか。また秋芳地域、また美東地域の拠点づくりを今進めているところでございます。

これについては、市民も御参画いただきながらワークショップを開催して、これを進めているわけでございます。

国の方向性としては、国の——ちよつとすみません。国の都市構造再編集中支援事業というのがございますので、こういった国の事業を活用しながら、いかに図書館を複合化して、そして、あらゆる世代が集って学べて、そして、絆を深めるような拠点にしていこうという構想でございます。

当然、子育て支援機能、また、健康づくりの機能まで持たせた拠点と集約した施設とする予定でございます。

方向性としては——ですから、この地域をいかに周遊をよくしたり、美祢駅を中心とした拠点をどうつくっていくかということの中の1つが図書館の複合化の施設でございます。

以上です。

○委員長（戎屋昭彦君） よろしいですか。石井副委員長。

○副委員長（石井和幸君） 中心市街地のまちづくりとして、Mineデザインノートも作成されていますので、まちづくりも並行して、整備のほうを進めていただければと思います。よろしくお願いします。

○委員長（戎屋昭彦君） その他質疑ございませんか。岡山委員。

○委員（岡山 隆君） それでは36ページ、企業誘致推進事業についてお伺いします。

この補正予算額が181万4,000円、そして、当初122万7,000円併せて、今回、補正後の予算として、304万1,000円という形になっております。

企業誘致については、やっぱり美祢市が元気になるための雇用の創出、産業振興、こういったことで、これによって人口が大きく増えるっていう可能性は、大手が来れば別ですけど、基本的にはそこまでいけないと思っております。

それで、やっぱり人口をしっかりと維持して、今の現状を維持していくためには、それなりに定期的に、こういった企業誘致を私は進めていくことが必要であります。

今回、この企業誘致活動に関わるこの企業のことを今回予算に入れておまして、今のところ、ちょっと私の記憶では、この3年間ぐらいは、何と申しますか、30人ぐらいから50人、そういったところの企業誘致はなかったかなって、このように認識しております。

それで、やっぱり企業誘致を、大きなあれじゃなくてもいいですけど、一応今市長が、動きがなければ何も進みませんので、今現在、こういった予算がついているということで、どのような、こういった企業訪問等をされて、誘致をされようとしてるか、これについてお伺いします。

○委員長（戎屋昭彦君） 篠田市長。

○市長（篠田洋司君） 企業誘致の件でございます。

この3年間では1社ということになります、誘致はですね。それと併せて、規模

拡大、増設っていうのが数社あったわけでございます。特に、これ調印式締結し、調印を締結しましたので、モルテン大津さんにおかれましては、かなりの規模で増設されるわけでございますし、今後増設される予定もあるわけでございますので、今、紹介できる企業団地がなかなかないという状況でございます。

これは一方で、県にお願いしながら、企業団地整備をお願いしながら、また、そして、今実施しているのが本社訪問でございます。いかに規模を拡大していただいて、せっかく来ていただいた会社の規模を拡大していただいて、雇用人数を増やしていくかということも非常に大事でございますので、本社を訪問することによって、また、その取引ある業者等の誘致も今後可能だろうと思っておりますので、これは地道で、また、きちんとした取組が必要だろうと思っております。

以上です。

○委員長（戎屋昭彦君） 岡山委員。

○委員（岡山 隆君） 今の点、既存のある企業に対して、本社を訪問して、そして、さらに経営が健全になるために、増設をしていく。こういった形のほうはですね、人数は多くはないけれども、非常に私、地道な活動で、大切なことと思っておりますので、そういったための予算もついていますし、これは、私は、非常に今後とも進めていっていただきたいなとこのように思っております。

それで、企業誘致に関しましては、やっぱりインフラが整備してないと、なかなか企業誘致もできない、そして水も必要だと。今熊本では、エヌメディアの半導体を、製造工場を台湾でつくって、それ、また熊本にも、そういった工場ですね、半導体をつくっていくという形で、相当な企業誘致が熊本県では行われております。

そういった面で、美祢市は、そういった形とは違うけれども、一応、現在、そこまでのやっぱりインフラ整備が整ってはいないかなって思ってます。

それで今、美祢市である誘致に関しましては、美祢テクノパーク、これが900平米ぐらいはまだ残ってると思いますし、そののところが約1町です。そののところが、一応2年前にできましたけれども、こののところが、今後そういったところも配慮してやっていくという、こういった認識でよろしいでしょうか。

○委員長（戎屋昭彦君） 篠田市長。

○市長（篠田洋司君） 岡山委員の御質問にお答えいたします。

美祢テクノパークの企業団地の誘致の件でございます。

企業団地というふうに整備されれば、インフラについては、上水道、下水道、また工業用水等の利用が可能でございますので、工業団地と整備されたところは、もうインフラが整っているということでございますので、企業側もきやすい、また操業に向けて、準備も早く進むという利点があるかと思えます。

今、美祢テクノパークについては、今紹介しておりますし、また逆に、いろいろ企業側からのアプローチもあるわけでございますので、これについては引き続き、実施してまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○委員長（戒屋昭彦君） 岡山委員。

○委員（岡山 隆君） 最後ですけど、この美祢市に合った、やっぱり企業誘致の仕方というのがあると思っております。それで、今回の予算について、そういった本社を訪問すると、そういったことを言われました。

そういった面において、市長の考え方として、やっぱりこの企業誘致をしていく上においては、やっぱりさっき言われたインフラ整備が非常に重要でありますし、あえてそこに経費をかけるのも難しいと思えます。だからイメージに合った企業誘致というのを市長、どのようにお考えかどうか、これについてお伺いします。

○委員長（戒屋昭彦君） 篠田市長。

○市長（篠田洋司君） 企業誘致の基本的な考え方の御質問でございます。

誘致する、アプローチする企業っていうのは、やはりこちらのほうで選択していかなければなりません。というのは、1つは、それを誘致することによって、既存の市内の企業の邪魔になる。また、撤退とか、閉鎖とかにつながってはなりませんので、その点は、本当十分配慮してまいりたいと思っております。

いい例で、秋田県で、ある会社を誘致したら、製材会社が全部潰れたという事案もあるわけでございますので、そういうことがないように、最大限のこちらも配慮してまいりたいというふうに思っておりますし、どういう影響があるかというのは、十分調査した上で、企業誘致を進めてまいりたいというふうに思っております。

あと、もう1つ留意点は、やはり今せつかく働いてらっしゃる方を引き抜くようなことがあってはなりませんので、その辺は十分配慮していかなければなりません。

今、本社訪問のときに、社宅整備されませんかという話も併せてさせていただいております。1社ではありますが、社宅用地として、来福台の土地を購入していた

だいた事案もあるわけでございます。それを労働者も確保しながら、企業誘致を進めていく必要があるというふうに思っております。

以上です。

○委員長（戒屋昭彦君） 岡山委員。

○委員（岡山 隆君） 企業誘致の件は終わりますけれども、もう1つは、給食調理場管理運営事業についてです。

これ44ページ、今回、補正予算では416万4,000円ついております。

今回、この辺については、小学生、中学生、大体当初予算のときには1,000人ぐらい生徒数がおることをお聞きしておるんですけど、この補正416万4,000円については、今、小学生なり中学生が310円、これを1年間で210食ですかね、これを、食材費の高騰等に充てるということでありますので、大体、1所帯の家計においては、私の把握した考えですけど、2,000円から3,000円ぐらいのこの1年間、経費の削減につながると思うんですけど、そういった認識でよろしいでしょうか。難しいかね。

○委員長（戒屋昭彦君） 篠田市長。

○市長（篠田洋司君） 岡山委員の御質問にお答えしたいと思いますが、ちょっと詳しい資料については、ちょっと分かりかねますので、千々松事務局長のほうから説明をいたさせます。

○委員長（戒屋昭彦君） 千々松教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（千々松雅幸君） 岡山委員の御質問にお答えいたします。

このたびの補正416万4,000円のうち、給食費の食材費補助に充てている部分は、364万1,000円ということになります。これ2学期以降の補助になりますけども、これを年間ベースで考えますと小学校児童、単純に、年1人当たり、4,920円の補助、そして中学校生徒につきましては、年1人当たり、5,740円の補助というふうに見込んでおるところでございます。

以上でございます。

○委員長（戒屋昭彦君） 岡山委員。

○委員（岡山 隆君） 小学生、中学生の子どもさんがおれば、本来なら、これかかるものが削減できるというのは、やっぱり助かってくるんじゃないか、このように感じます。

それで、給食センターが今度は重安にできますので、2学期からの運用ということでありまして、今までの伊佐給食センターの職員、そして大嶺、厚保、（聞き取り不可）、こういったところの一応、これを全部確保して、そこで全部、給食をつくっていただくために働いてもらうということでありまして。非常にそれはいいことであると思っておりますし、今後、ここで働く方も、職員、定年になっていったら、もうこれは職員は補充しないで、適正な職員数に削減していく。こういった認識であって、それで、今回のようなこの補正予算をつけることなくきちんと給食費を対応できるという、こういった認識でよろしいでしょうか、お伺いします。

○委員長（戒屋昭彦君） 篠田市長。

○市長（篠田洋司君） 岡山委員の御質問にお答えいたします。

そういった認識でよろしいのかという御質問でございますけど、そういった認識でよろしゅうございますが、雇い止めとかはしません。

今、取引業者も今のままスムーズに移行できるように十分、最大限配慮してまいる所存でございます。

以上です。

○委員長（戒屋昭彦君） その他質疑ございませんか。杉山委員。

○委員（杉山武志君） 先ほどminetoの質問させていただきましたけど、しつこいように申し訳ないんですが、一般財源、市税はあまり使っていないという御回答いただいたと思うんですけど、骨格予算のときに、運営費、マネジャー、コーディネーター、キャンプ、これですとね、総額すると4,677万7,000円で、一般財源から3,938万9,000円出ております。

そして、このたびラーニングスペースということで、1,700万円ぐらいの規模の事業をされるわけですけど、そのうちの一般財源が1,200万円、この一般財源の中に、何かぐららせてあるんでしたら、また話は変わりますが、我々がいただいとる一般財源の数字を合算するとこうなるんですが、もし、また、即答をいただいても結構ですし、一般財源の中に、何かぐらっているものがあれば、先ほどせっかくいただいた表が、こちらが求めるものと違うというお話もありましたが、再度資料いただけたらなと思うんですが。

○委員長（戒屋昭彦君） 篠田市長。

○市長（篠田洋司君） 杉山委員の御質問にお答えいたします。

一般財源の中に、どうしても普通交付税、特別交付税が入っていきます、一般財源化しますので。そういった部分では、こちらの予算書、予算説明書では分かりにくい部分もあろうかと思えます。これについては、mineto教育改革プロジェクトの中の公設塾の運営と、いろいろその中にも入っておりますので、事細かに、また資料等は作成させていただきたいと思えます。

以上でございます。

○委員長（戒屋昭彦君） その他質疑ございませんか。三好委員。

○委員（三好睦子君） お尋ねします。先ほど失礼しました。

2ページのこの補正——6月補正版の2ページの歳入の内訳を見ますと、自主財源の市税が減少しております。これは、個人ですけれど、今個人の収入が少なくなっているということの表れだと思えます。伸び率を見ると4.7%の減となっております。どう回復されるのでしょうか。市民が豊かに暮らすことが大事と思えますが、お考えをお尋ねします。

○委員長（戒屋昭彦君） 篠田市長。

○市長（篠田洋司君） 三好委員の御質問にお答えいたします。

このたびの市税については、定額減税が入っておりますので、その部分が減額、減少、大きな要因ではなかろうかと思えます。

以上です。

○委員長（戒屋昭彦君） 三好委員、よろしいですか。今昨日の説明が今日もありませんように、今定額減税、補正予算の部分ですから、その辺り、考えて質問していただけたらと思えます。三好委員。

○委員（三好睦子君） これに関してですね——はい、分かりました。

○委員長（戒屋昭彦君） 質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戒屋昭彦君） 質疑なしと認め、質疑を終わります。

それでは、本案に対する討論を行います。御意見はありませんか。山中委員。

○委員（山中佳子君） 公設塾minetoについて、意見を述べさせていただきます。

minetoの子どものやる気を引き出すカリキュラムや目的には賛同しますが、ある方が市内を通してこのような事業をされるということであれば、私はもろ手を挙げて応援したいと思えます。しかし、年々膨らんでいくmineto教育改革プロジェクト



事業費に対して、私は公費でこのような事業が進められていくことに対して、いかなものかと疑問を感じています。

教育は時間もかかり、思春期の子どもたちには個人差もあり、結果もおいそれと出るものではありません。しかし、議会は、市長執行部の予算執行に対してチェックしなければなりません。その際、費用対効果、公平公正に予算の執行が行われているか等を考慮します。

改選前の3月議会において、私たちは、骨格予算でminetoの予算を承認しています。今回、補正予算でラーニングスペース等を増額補正されていますが、今年度はもう走り出しており、反対はできないものと思います。しかし、来年度はぜひ再考していただき、教育の原点は、美祢市内は全て公立ですが、小・中学校にあると思います。市内の小中学校の教育のさらなる充実を図ることをお願いして、賛成意見とします。

○委員長（戎屋昭彦君） ほかに御意見ございません。三好委員。

○委員（三好睦子君） 私は反対意見を述べます。

今回の議案を見ますと、市民の願いが届いた予算もあります。例えば、これは業者の方なのですが、電子入札システムを入れてほしいといった声がありました。これは実現できてます。

また、3歳児未満の保育料、保育料の軽減とか、保育に関しても予算がとっておられます。

また、带状疱疹ワクチンの予防接種など、こどもの医療費助成事業制度、これは高校生まで、所得制限なしとなっています。このように市民の願いの実現された事業など、評価できる点多々あります。

また、先ほどから問題になっておりました地域活性化推進事業で、専門家の力を借りるというのがありますが、専門家の方、過疎地域の再生に実績がたくさんある方で、私も何度か講演に行っております。その実績を本当に評価しています。それを取り入れられたということは、本当によいことだと思います。この先生にすぎるだけではなく、あとの市民と職員と皆関係者がこれに沿ってしていこうという、この地域活性化推進事業には期待したいと思います。

しかし、このマイナンバーカードの交付には反対です。

マイナンバーカードは、政府が管理運営しているウェブサイトマイナポータルを

入り口として、情報の連携を拡大させ、あらゆるデータを集積するために、マイナンバーカードの機能の必要のため、カード取得推進費が多くなっています。

また、必要な……

- 委員長（戒屋昭彦君） 三好委員、すみません、マイナンバーカードの交付とか、これはもう……
- 委員（三好睦子君） じゃあ省きます。
- 委員長（戒屋昭彦君） 端的に何か意見を言われるんだったら、反対のところの部分をちょっと述べていただきたいと思います。
- 委員（三好睦子君） 国の償却資産、こうしたことに、国民、市民にマイナンバーを押しつける制度は廃止すべきです。
- 委員長（戒屋昭彦君） 今回の予算についての反対部分は、どちらが反対なんでしょうか。
- 委員（三好睦子君） だから国制度の——国——国制度を直結したっていうか、そういう市民の生活を守る、先ほども言いたかったんですが言えなかった。今、市民の所得が本当に少なくなっている。命と暮らしを守る政策をするべき……
- 委員長（戒屋昭彦君） 三好委員、今回の補正予算について、賛成の部分があるということで、反対の部分は（聞き取り不可）反対意見を述べていらっしゃるんでしょうか。
- 委員（三好睦子君） マイナンバーカードの交付です。
- 委員長（戒屋昭彦君） 今回の補正予算で、マイナンバーカードの交付ということは、予算には上がっておりません。システムの改修ということはありましたけど、その部分が反対なんですか。
- 委員（三好睦子君） そうですね、システム改修もありますけれど、マイナ保険証になっても、それは保険——52号でしたか、国保のほうでもありますけれど、後期高齢者のほうにもありますけれど、マイナンバーカードのほうにも予算が入ってるじゃないですか。ですから、一般会計からも入ってます。
- 委員長（戒屋昭彦君） 最後まで、ちょっと端的に述べてください。
- 委員（三好睦子君） ですから、国——国——市民——国のこうした命と暮らしを守る防波堤となるべき予算にするべきだと意見を述べます。
- 委員長（戒屋昭彦君） 反対意見ですか。その他御意見ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戒屋昭彦君）御意見なしと認め、討論を終わります。

これより、議案第49号を採決いたします。本案について、原案のとおり決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○委員長（戒屋昭彦君） 挙手多数であります。よって、議案第49号は原案のとおり可決されました。

以上で本委員会に付託された議案1件について審査を終了しました。

その他委員の皆様方から所轄事項に――失礼しました。所管事項について何かありましたら発言をお願いします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戒屋昭彦君） ありがとうございます。ないようでしたら、これにて本委員会を閉会します。御審査、御協力、ありがとうございました。お疲れさまでございます。

午前10時48分閉会

---

上会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

令和6年6月27日

予算決算委員長